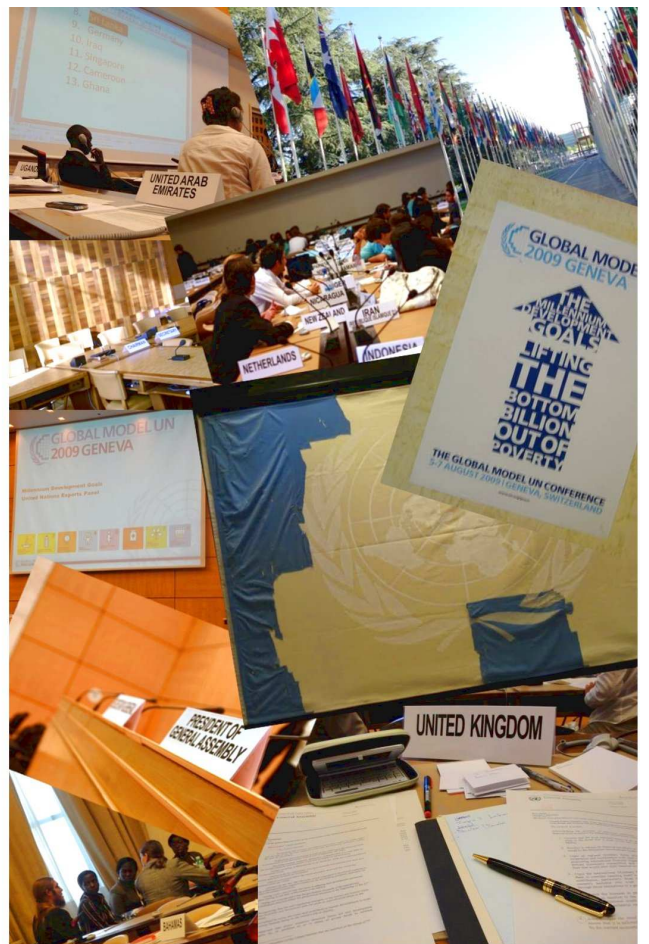


Global Model UN



GLOBAL MODEL UN 2009 GENEVA



日本代表派遣プログラム報告書



目次

1. はじめに	高橋 尚子
2. レター	
3. GMUNとは?	
◆ GMUN概略	
◆ 事前企画	
◆ スケジュール	
◆ 議題	
4. GMUN日本代表派遣プログラム	
◆ 団員紹介	
◆ 外務省との協力：いっしょに国連	
5. 報告	
◆ 安全保障理事会(クロアチア共和国)	高橋 尚子
◆ 第一委員会(チェコ共和国)	小幡 奈々江
◆ 第一委員会(マリ共和国)	金子 亜由美
◆ 第二委員会(グレートブリテン及び北アイルランド連合王国)	平山 雄人
◆ 第三委員会(エジプト・アラブ共和国)	小森谷 祐司
6. 収支報告	
7. おわりに	高橋 尚子

はじめに

高橋 尚子

—ジュネーブ、Palais des Nation、国連本部のカフェテリアにて。3人の模擬国連会議参加者たちの会話。

「アメリカ大会は世界でもっともハイレベルよ。みんな声が大きいから、存在感を出すのは至難の業だわ。」

「あら、スペイン大会は世界で最もハイレベルよ。みんな時間を守らないから、先の見通しをたてるのは至難の業だわ。」

「いいえ、世界で最もハイレベルなのは日本大会よ。みんな意見を言わないから、議論をはじめるのは至難の業なの。」

これはあくまで冗談ですが、（そして日本の大会は議論の質の高さと参加者のまじめさで定評を得ていますが）このジョークは次のような指摘にこたえてくれると思います。「同じような興味をもったひとがよって集まって、いったい何が得られるというのだろうか？」

GMUNは世界中から600人の学生を招待して行われる模擬国連の世界大会です。各国から精鋭が送り込まれ、議場を縦横無尽に動き回ります。初対面の相手と意見交換を行い、短時間で合意点を見つけて仲間を増やしていくのは非常に根気のいる作業ですが、リサーチ→政策立案→政策表明→交渉というプロセスは、問題発見能力やマネジメント能力を養うのに最適な学習プログラムです。また、会議を通して形成される友人関係は参加者のキャリア形成に大きな刺激を与えてくれます。

この友人関係の広がりについて、「若いうちは異なる興味を持った人に触れる方がよいのではないか」という指摘を、あえて考えてみたいと思います。

興味の異なる同じ世界の人と多くであうことと、同じ興味をもった違う世界の人と多くであうことの価値を比べることはできません。しかしながら、同じ興味を持った違う世界の人と出会う場としては、600人のあつまるGMUNは「違う世界」の多様性において最適の場あるといえます。また、興味が同じ相手とは、全て分りあえる相手という意味ではありません。かつて「英語は要求を端的に」という法則に従って中央アジア出身の女の子に対し、しかじかの理由によりあなたの提案には反対する、ときっぱり言ったら泣きそうな顔をされてしまったという苦い経験も、さまざまな出身の人を相手にする世界大会の難しさと面白さを私に教えてくれました。

同じ興味をもった違う世界の人たちは、ある時は友人となり、ある時はライバルとなります。逆説的ですが、国際大会に参加することには、「世界はそんなに恐れおののくほどすごいものでもない」という印象を得られるという意義があると思います。もちろん尊敬してやまない人にであうこともあり、悔しい思いもたくさんします。しかし、自分が世界に通用しない人間かどうかは、世界にでてみて初めてわかるのです。そしてたいがい場合は気づきます、「意外とやれるじゃないか」と。そして「あともう少しじゃないか」と。

国連が、大規模な施設とリソースを動員して、大学生のためにGMUNを主催したという事実は、これらの出会いの価値を証明するものです。最後になりましたが、私どもの未熟な運営にも関わらず、これらの価値にご注目くださり、後助成をいただきましたかめのり財団様、国連協会千様、またご指導、ご助言をいただきました朝日新聞の野村様、国連広報センターの皆々様、そして外務省の紀谷様に厚く御礼申し上げます。

レター

United Nations  Nations UniesHEADQUARTERS • SIEGE NEW YORK, NY 10017
TEL.: 1 (212) 963.2912 • FAX: 1 (212) 963.4361

14 October 2008

Dear Sir or Madam,

It is my pleasure to inform you that the United Nations Department of Public Information will organize the first Global Model UN conference, to be held from 5 to 7 August 2009 at the Palais des Nations in Geneva, Switzerland.

The conference seeks to involve up to 1,000 of the best youth delegates (18-24 years old) from university-level Model UN programmes around the world. In addition, we hope that it will serve as an example of best practices for other Model UN conferences. My Department is taking this initiative in recognition of the important role that Model UN conferences play in educating young people about the United Nations and the global issues on its agenda.

We are pleased to extend an invitation to your programme to participate in the Global Model UN because of its dedication to promoting this simulation. At this stage, we can accommodate 200 student delegates from Model UN conferences in the Asia and the Pacific region, and we invite you to send four (4) students from your programme to the conference next year. It is possible that this number could increase if other invited programmes are not able to send any delegates. Kindly be advised that students will need to raise funds locally or to identify sponsors to cover their travel, accommodation and living expenses related to the conference.

In order to reserve these spaces, please inform us of your intent to participate in this conference no later than 31 October 2008. Should your response be positive, we will assume that your programme is committed to helping the delegates find funds and to assist them in preparing for the conference. Once we hear back from you, we will send you additional guidelines for selecting delegates.

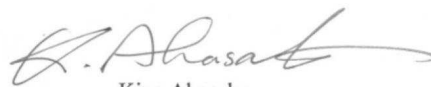
The 20th All Japan Model United Nations Conference
Japan

cc: Kiyoko Ikegami, Director, UNFPA Tokyo

I am personally very excited about this important UN initiative. The response both from within the United Nations and among our partners has been very enthusiastic. We hope that yours will be too.

For more information, please visit www.un.org/gmun or contact Ms. Yvonne Acosta, Chief, Education Outreach, Department of Public Information, at acostay@un.org; or Mr. Bill Yotive, Manager, Global Teaching and Learning Project, at yotive@un.org.

Yours sincerely,



Kiyo Akasaka
Under-Secretary-General
for Communications and Public Information

GMUNとは?

GMUN 概要

GMUNとは、初めて国連が主催する、模擬国連の世界大会です。国連は、今日の政治、経済、芸術、司法界の多くのリーダーが、学生時代に模擬国連を経験していることを例にあげ、模擬国連の教育プログラムとしての価値を評価し、今大会の開催を決定しました。

各国に割り当てられた合計600人～1000人の招待枠を目指し、現在世界各地で学生が競い合っています。今年の世界56カ国から約1000人の学生が参加しました。

場所：ジュネーブ（スイス）

開催日程：2009年8月2日～7日

参加資格：

各国の国連広報センターによって認められた透明な選考プロセスによって選出された模擬国連経験のある優秀な18歳以上24歳以下の大学生・大学院生。

参加費、交通費：全額自負担

招待元：国際連合（United Nations Department of Public Information）

大会の4大特色は

本物国連で用いられているプロシージャーに近い新ルールの導入

国連職員の動員

運営に参加した学生への特別トレーニングプログラムの実施

インターネットを利用した新しいオンラインフォーラムの導入

です。詳細はスケジュールをご覧ください。

なお、GMUNの立ち上げについては、国連公式文書（PI/1858）に記載されています。

事前企画

GMUNの企画は、模擬国連会議などの大会中企画、そして大会前企画の2部から構成されます。大会前にはビデオコンテスト、インターネットを利用した国連職員18名とのセッションなどが開催されました。18名の中には日本人の中野健司氏（Senior Political Affairs Officer at the General Assembly Affairs Branch the United Nations Secretariat）が参加されました。また、ビデオコンテストの最優秀賞はギリシャの学生二人に授与されました。

スケジュール

大会当日のスケジュールは以下の通りです。

8月2日		18:15-18:45	委員会内 議長-大使間会合 総会ミーティング 代表団長会合
	代表団到着		
8月3日		8月5日	
	代表団集合 於 Palais des Nations	8:00-8:45	朝食
8:00-9:00	朝食	9:00-9:45	開会式
8:00-17:00	受付	10:00-10:30	赤阪氏、および来賓の方々によるスピーチ
9:00-17:00	ガイドツアー 政府常駐代表部訪問 代表団会合	10:30 -	事務局、大使の公式写真撮影
16:00-18:00	映画上映「平和の戦士」	10:50	スイス外務省によるブリーフィング
18:00-19:00	地域グループ会合	10:50-13:30	総会本会議
8月4日		13:30-14:30	昼食
8:00-9:00	朝食	14:30-15:15	国連職員によるキーノートスピーチ
8:00-11:00	受付 (予備)	15:15-17:30	国連総会各委員会第一会合
10:30	日本政府代表部訪問	17:30-18:30	ブレインストーミングセッション 「ミレニアム開発目標とユース」
11:30-13:00	会議前ブリーフィング 歓迎スピーチ UNDP 事務局紹介 諸注意 イベントインフォメーション スケジュール説明	18:30-19:00	代表団長会合
13:00-14:00	昼食	8月6日	
14:15-16:30	ミレニアム開発目標に関する全体会合 このセッションは国連の専門職員からミレニアム開発目標について質疑応答をうける機会を、大使のみなさんに提供するものです。	8:00-8:45	朝食
16:30-17:30	会議前準備 総会委員会ブリーフィング プロシージャー 決議案作成 事務総長-大使間ミーティング 総会議長-大使間ミーティング	9:00-9:45	ゲストスピーカーシリーズ
17:30-18:15	会議前準備	10:00-13:00	第二会合
		13:00-14:00	昼食
		14:00-17:30	第三会合
		18:00-19:00	代表団長会合
		19:00-19:30	小休止
		19:30	非公式会合 安全保障理事会緊急会合開始
		8月7日	
		8:00-9:00	朝食
		9:00-12:00	第四会合
		12:00-13:00	昼食
		13:00-15:30	第五会合
		15:30-17:00	総会本会議、決議採択
		17:15-18:45	閉会
		20:00	スイス政府による懇親会

議題

今回のGMUNでは”The Millennium Development Goals; Lifting the Bottom Billion out of Poverty”をテーマとして、ミレニアム開発目標に関する議題が計4つの委員会に分かれて話し合われました。議題は以下の通りです。

第一委員会：軍縮と国際安全保障

Topic 1 : The Impact of the uncontrolled Spread of Illegal Small Arms/Light Weapons on the Realization of the MDGs

第二委員会：経済と金融

Topic 1 : The impact of the Economic and Financial Crisis on the Achievement of the MDGs

Topic 2 : Climate Change and the MDGs: crafting viable post-Kyoto Agreements

第三委員会：社会、人道、文化

Topic 1 : Human Rights and the Environment

Topic 2 : Children of Conflict and the Achievement of the MDGs

第四委員会：非植民地化、特別統治

Topic 1 : A regional Focus: assessing UNRWA's (UN Relief and Works Agency for Palestinian Refugees) contribution to the Realization of the MDGs in the Near East

Topic 2 : The Outer Space and Development Agendas: crafting global Approaches to ensuring the peaceful uses of Outer Space as an indispensable Tool in the Achievement of the MDGs

なお、大会3日目に事前告知の無かった安全保障理事会緊急会合が開催されました。

安全保障理事会緊急会合

Agenda Item: Situation in Central African Republic

GMUN日本代表派遣プログラム

団員紹介



代表 たかはしなおこ
高橋尚子 上智大学 4年
安全保障理事会 (クロアチア)



渉外 こもりゆうじ
小森谷祐司 国際基督教大学 4年
総会第三委員会 (エジプト)



おばななえ
小幡奈々江 東京大学 3年
総会第一委員会 (チェコ)



ひらやまゆうじん
平山雄人 明治大学 3年
総会第二委員会 (イギリス)



かねこあゆみ
金子亜由美 立命館アジア太平洋大学 3年
総会第一委員会 (マリ)

外務省との協力：いっしょに国連

GMUN日本代表派遣プログラムは、外務省の主催する「いっしょに国連」キャンペーンの一環として、09年6月より発行されているメールマガジンの作成に協力しています。当プログラムのメンバーが担当するのはキャンペーン協力団体である各国際機関への代表へのインタビュー記事作成です。各機関がどのような活動を行っているのか、また代表はどのようなキャリアを経て現在の職務に就いているのか等について訪問インタビューを行いました。その成果は外務省が週一回発行するメールマガジン、および模擬国連委員会のWebsite¹によって社会に発信されています。

なお、これまでインタビューをおこなった機関代表は以下の通りです。（2009年8月28日現在）

村田俊一 国連開発計画(UNDP)駐日代表

オスターヴァルダー 国連大学 (UNU) 学長

池上清子 国連人口基金 (UNFPA) 東京事務所
所長

功刀純子 国連児童基金 (ユニセフ) 東京事務
所代表

長谷川真一 国際労働機関 (ILO) 駐日事務所代
表

中村武洋 国連環境計画国際環境技術センター
(UNEP/IETC) 所長

谷口和繁 世界銀行駐日特別代表

The screenshot shows a web browser window displaying the World Bank Tokyo Office website. The main content area features a news article with the following details:

- Title:** 模擬国連の学生4名が世界銀行東京事務所を訪問
- Date:** 2009年8月27日, 東京
- Text:** 外務省「いっしょに国連」キャンペーンの取材のために来訪したもので、上智大学4年の高橋尚子さん、国際基督教大学4年の小森谷祐司さんら4名が、谷口和繁・世界銀行駐日特別代表に対し、世界銀行と他の国際機関の違い、将来世界銀行を目指す若者へのアドバイスなどの質問を投げかけました。
- Text:** 高橋さんと小森谷さんは、今年8月5日から7日までスイス・ジュネーブで開催された模擬国連大会 (Global Model UN) に日本代表として参加しました。
- Text:** 「いっしょに国連」は、国連の活動や日本と国連の関わりについて考え、理解を深めるためのキャンペーンで、2009年1月から2年間にわたり、外務省が実施しています。国内各地で開催予定のイベント情報、国際機関関連のメールマガジンやEニュースの登録方法などをウェブサイトですべて紹介しており、世界銀行東京事務所も参加しています。
- Text:** 駐日国際機関事務所長の連続インタビューを掲載するメールマガジンの受信登録やバックナンバーは、こちらをご覧ください。世界銀行情報センター (PIC東京) では、学生や大学院生のグループ訪問を受け入れています。詳細は ptokyo@worldbank.org 電話03-3597-6650までご連絡ください。

世界銀行東京事務所ホームページに掲載されました。

¹ 模擬国連委員会-GMUN
<http://jmun.org/gmunindex/interviews/>

報告

安全保障理事会 / 第一委員会(クロアチア共和国)

高橋 尚子

私はクロアチア大使の代表団長として、安全保障理事会と総会第一委員会に出席しました。本報告では国際連合クロアチア常駐代表部訪問と、安全保障理事会に焦点を当て、「小さな個の役割」という観点から報告したいと思います。

8月3日に、クロアチア政府代表となったスペイン人、ケニア人の仲間とともに、クロアチア政府国連常駐代表部を表敬訪問しました。クロアチア政府常駐代表部大使のMirjana Mladineo氏は私たちの幅広い質問に気軽に応えて下さいました。まず、クロアチアが昨年度安保理で議長国を務めていた際の執務の様子については、「フランスやイギリスなどの大国の人材力には敵わず、議長国とはいえ彼らの助けをかりずには運営がままならず、苦しかった。それでも、紛争を経験したわが国が、安保理の非常任理事国に選出されたことは非常に喜ばしい。」と、小国の実情を語って下さいました。また、クロアチアは議場でどのように行動すべきかとの質問には、「EUについていきなさい。もしEUが分裂したら、誰が何を言っているかしっかり見極めなさい」ときっぱりと答えられた姿が印象的でした。大使は、私たちを見渡して、「この小さな代表部の建物をみて驚いたでしょう。私たちは人的資源も乏しく、一国ではなにもできません。いまは経験を重ねながら平和構築の分野での貢献を模索しているのです。」とおっしゃいました。

大使の、「EUについていくべし」とのご助言をふまえて、私たち3人は各々の議場でクロアチアの立場を超越しない範囲で、積極的に発言することを決めました。それは、長引く紛争経験にも関わらず、安保理議長国にまでたどり着いた小国の努力を周知させたかったためです。この決定は

度を超せば模擬国連の実験的本質をはずれる恐れがあります。しかし、小国が発言してはいけないルールはない、というのが私たちの結論でした。

以上のような方針から、第一委員会ではEUグループと共に、決議案の作成に携わりました。しかし大会2日目に、「中央アフリカ共和国西部で新たな武装組織による蜂起があった」という模擬ニュースがあったため、安保理緊急会合に出席することになりました。1時間以内に資料をまとめ、政策を発表し、24時間以内に結論を出すことが課せられ、安保理はスタートしました。クロアチアはここでも強い意見を述べるのが控えられると思い、与えられた1時間の中で、過去に緊急会合が開催されてから決議が採択されたまでのプロセスを調べ、即日おこなうことのできる行動の選択肢をいくつか提案することにしました。当初は東部に展開するPKOを西部に動員するための新決議を採択するには時期尚早との意見がありました。しかし、人道支援組織への援護を重視する観点から、東部PKOを拡大する方向が提案され、各国は、「ルワンダやダルフルの悲劇を繰り返してはいけない」を合言葉に、議長声明ながらも強い実効性を示唆するものを採択しました。決定は5大国を中心になされましたが、他国が「クロアチアの指摘のように～」と発言するなどの形で、意思決定に貢献できたことを嬉しく思いました。

声が小さいことと、声を発さないことは完全に異なると思います。意思決定の最高地位にいたくとも、目立たなくても、少数派であっても、発言をすれば何らかの形で参加することができ、貢献することができるということを、自分の身のことのように、クロアチア大使の立場を通して実感することができました。

第一委員会(チェコ共和国)

小幡 奈々江

これまでフィリピン、アメリカ、そして日本で8年間模擬国連会議に参加してきた私にとって、国連主催の第一回GMUNに参加できたことは夢のようなことでした。今までの活動の集大成としてふさわしく、私が今まで参加した大会の中で最も実りあるものでした。

大会の規模は想像していたよりも遥かに大きく、本当に国連が主催しているのだと、何度も何度も感激しました。大会中は本部内を自由に歩きまわることができ、本物の国連大使になった気分でした。私達がブリーフィングや会議を行っていた周辺の会議室では、本物のHuman Rights Councilや総会第三委員会が議論を交わしていました。時には、本物の国連職員さんが私達の活動に興味を持ち、話しかけてきてくださったりもしました。このように、自由に「国連を体験」させてくださった国連側は、最初から最後まで学生の私達を尊重し、信頼してくださっていたのだと感じました。印象に残っているのが、開会式で藩基文事務総長がくださった”This is no empty role play”という言葉です。私達は単に模擬国連というロールプレーをしにジュネーブまできているのではなく、ユースとして国連に何かを提供しに来ているのだと…。国連はその趣旨を最後まで貫き通したのだと思います。

GMUNはみな共通の興味関心を持ち、各々の国の選抜で選ばれた、とても意識の高い学生の集いでした。そのような集いを開催することで、将来の国連職員や政府代表になるであろう学生同士の間、そして学生と国連との間に強い繋がりが構築されたと思います。本来ならば対立的である国

の学生同士も国益などに縛られず仲良くなれたことに大きな意義があると思いました。

【会議について】

私はチェコ共和国大使として第一委員会に出席しました。議題の「小型武器の違法取引が及ぼすミレニアム開発目標達成への影響については、開発と軍縮を結びつけるとも難しい議題でした。

会議が開始される前に、大会で私と共にチェコ大使を務めた、ケニアとトリニダット・トバゴからの学生とチェコの政策について話し合いました。チェコは2004年にヨーロッパ連合(EU)に加盟して間もない国なので、基本的にはEUの方針に従うことを確認し、それぞれの会議にどのようなスタンスで臨むかを明確化しました。

実際の会議で私は予定通りEUグループの他の大使達と、前半でEU内での決議を作成し、後半は他のグループとの決議コンバイン交渉に臨みました。最終的に第一委員会は、9つ提出された決議を1つにまとめることができました。

【最後に】

GMUNという国連の試みは、大成功だったと思う。他の国から参加していた学生も最高の経験だったと、みんな口を揃えて言うでしょう。ユースとしてそれぞれの国で積極的に活動して欲しい、次世代のリーダーになって欲しいという国連からのメッセージを忘れずに、これからの活動を頑張っていきたいと思います。 **We own the world's future, and we are responsible for it, don't waste the youth on the young**

第一委員会 (マリ共和国)

金子 亜由美

私は総会第一委員会にマリ大使として参加しました。マリがどのような立場に置かれているのかをより理解するために、同じマリ大使担当の仲間とコミュニケーションを図り、私たちの中でマリ大使の立場というものを確立して会議に臨みました。マリは軍縮に力を入れている国ですが、アフリカに位置する国々は今でも貧困や飢餓、紛争などといった問題を抱えています。会議の中で他のアフリカ諸国と対談し、でた結論は「アフリカの結束は固いものである」という確信でした。話し合いの結果、ナイロビ宣言やアフリカ宣言を中心に政策案を考えていきました。

会議そのものの印象としては各国のスピーチがなされたことに加えて、多くのメモが回っていたことにとっても驚きました。また公式発言時のスピーチは特に国のプレゼンスを強く印象に残すものが多かったと思います。会議では、論点を整理しないまま時間が過ぎ、多くのグループが単独で政策を書き上げてしまったために会議後半で9つの違うグループから提案決議案が提出されたときは少し不安になりました。しかし、多くの国の関心が近いところに存在していたために思いのほかスムーズに決議の採択がなされました。日本で経験してきた模擬国連会議と比べてスタイルの違いや、会議手続きの違いなど新鮮な部分がありましたが、国連で実際用いられるルールにのっとって議事進行されたために、国連をより現実的に感じることができました。また、パネルディスカッションのパネリストは実際に国連で活躍されている方々で、知識だけではなく、経験もある方だったのでとても説得力があり、私たちにはとても刺激的なものでした。

私は今回初めて世界大会というものに参加しました。長い間海外暮らしだったのでコミュニケーションを図ること自体はあまり難しいと思わなかったのですが、会議での交渉・説得・提案などを考え方の違う人たちと母国語ではない言語で共有することの難しさを痛感しました。一方の意見だけではなく、お互いの主張にいかにか折り合いをつけてまとめるかということが、今回の会議で私が一番難しいと思った点です。しかし、考え方が違えども納得がいくまで話し合うことができるのは相手がいてはじめてできることだと思います。今回のGMUNのように大学生が集まり国を代表して話し合うといった機会は滅多にないことです。同じ年代のひとが同じ関心事について話し合うという状況はとても貴重なものだと思います。紛争や戦争は一見遠い国の出来事のように思えますが、同じ大地の上に学校に行く子どもがいる傍ら、銃を持ち兵士として生活を送る子どもも、悲しいことにこの世界には存在します。それは現実なのですが、この様に世界情勢についてよく知りたいという気持ちは純粹に、自分たちのすむ地球をより良くしたいと願う気持ちからくるものと思っています。GMUNを通じてそのような人同士が世界中にいるのを心強く思うのと同時に、私個人が「地球人として」どのように動けばより効率的な結果を生み出すことができるのかを考えさせられる瞬間でもありました。それは「世界平和」を実現させるために必要な一歩であったと思います。

第二委員会(グレートブリテン及び北アイルランド連合王国)

平山 雄人

私はグレートブリテンおよび北部アイルランド連合王国（以下イギリス）大使として、経済・金融セクターを扱う総会第二委員会に出席しました。本報告では、大会編と会議編の二部構成として、大会編では私個人が大会全体から感じたことを中心に、会議編ではイギリスという、いわゆる「歴史ある大国」が会議においてどのようなポジションを取っていたのかを述べたいと思います。

【大会編】

私は模擬国連の世界大会は本GMUNが初めてだったので、大会全体を通して日本の模擬国連にはない多くの経験を得ることができました。まず開会式において世界57カ国、約1000名の各国で選抜された学生が模擬国連を通じて一堂に会しているという、その状況に衝撃を受けました。日本では日本人が様々な国を担当することが当然でしたが、GMUNでは国籍と担当国が一致していないという状況を目の当たりにし、世界各国に模擬国連という同様の活動を共有している学生が多くいるということに一番の衝撃を受けました。多くの学生がまさにその出身国を代表して参加しており、例えばケニアから来た学生の一人はこう言っていました。「僕はケニアでは下層民ではあるけれど、ケニアの代表としてこのGMUNという最高の機会を最大限に生かしたいんだ。だってこんな機会はないかもしれないでしょ?」。それぞれの学生がそれぞれの思いを胸にジュネーブに集まっており、そしてそういった貴重な機会を作り出し、学生との対話をさらに前進させようとする国連。その双方の思いは、まさにGMUNにて最高の化学反応を起こし結実していたと思います。

【会議編】

各委員会が始まる前に、同じイギリス大使であるヴェネズエラ人とイタリア・フィリピンハーフの仲間とともに、会議の作戦を練りました。そこで、各委員会でイギリスはEUの牽引役は議長国であるスウェーデンに任せ、「大国の一つ」として会議を進めようという合意を得ました。

第二委員会では以上のような代表団の合意の下に、Group of 8（以下G8）として動くことにしました。これはTopic1,2ともに「大国の合意」が重要なポイントになっていたことに起因します。実際にイギリス以外7カ国の大使も同様のことを考えており、Topic1,2ともにG8で独自の決議案を作成しました。一方でGroup of 77（以下G77）がいわゆる途上国グループとしてG8に対抗する形で少々過激な決議案を作成しました。その後、Topicごとに二項対立の構図が出来上がっていたため、修正交渉の作業自体は難航せず、議論の時間が多く取られました。特にTopic1では保護貿易の撤廃やIMFや世界銀行の改革についての議論が激化、Topic2では過去の歴史認識の齟齬が目立ちました。結果として基本的にG77の決議案をベースにG8が修正を入れ、Topic2に関してはGMUN第2会期で同様の議題の下に話し合いを継続させるという合意を得て、両決議案ともにコンセンサス採択されました。

会議を通して、全国家が同様に投票権をもっている事、政治的・経済的国力の差ということの間の国連特有のジレンマは日本の模擬国連でもGMUNでも、さらには実際の国連でも根強く残る問題であることを実感しました。さらに大会を通して、学生と国連の距離が縮まったこと、そして世界の学生同士の距離が縮まったことは本大会の一番の成果だったのではないかと考えます。

第三委員会(エジプト・アラブ共和国)

小森谷 祐司

私はエジプト大使の代表団長として第三委員会に参加しました。第三委員会は国連総会の元で人権や社会問題を扱う委員会です。今回は「人権と環境」及び「紛争における子とMDGsの達成」という2つの議題が提示されていました。

会議が始まると、まず「紛争における子どもとMDGsの達成」が採択され、各国大使のスピーチの後にGMUN事務総長報告書の勧告に基づいた決議案作成が行われました。この議題についての議論に時間の多くが割かれた結果、もう一つの議題である「人権と環境」に関する議論は十分行われず、10ヵ国前後の大使によるスピーチが行われただけで所定の会議時間が終了しました。最終的に総会本会議に提出された決議は「紛争における子どもとMDGsの達成」に関する一本のみで、これは賛成多数により採択されました。

およそ3日に渡る会議を終えて思うのは、様々な国からの参加者が集う世界大会には、日本の模擬国連では経験することの無い難しさと楽しさがあるという事です。それは、様々な背景を持つ人々と出会い、議論する事の難しさと楽しさでもあります。今回のGMUNでは、欧米の国々はもとより、東南アジア、南米、中東、アフリカからも多くの学生が参加して居ました。そのように様々な背景を持つ人がいる会議では、議論の進め方を始めとした様々な場面において自分の「いつものやり方」が通用しないという事態が起り、そのたびに今まで自分が如何に「日本」という共通の背景を持った人達の中で生きてきたのか、という事に気づかされました。

一方、他国からの参加者とは会議以外でも話す機会があり、自分が文献やインターネットを通してしか知らない国の事を、実際にそこに住んでいる人達から聞く事ができました。特に、途上国出

身の人達と話をすると、お互いの持つ背景や環境の違い、お互いの住む世界が如何に違うのかという点に驚かされました。彼ら彼女らの話を聞くと、日本という国に住んでいること、日本人であることが如何に恵まれているのかという事を思い知らされます。当然、日本にいても様々な情報にアクセスし、日本以外の世界について知る事は出来ます。しかし、やはり現地に住んでいる人達から聞く生の情報は、不思議な迫力を持っています。

この度の会議を通して確信したのは、模擬国連の会議というものは出身国を始めとした様々な背景を持つ人々がいっしょに行う時にこそ本当の価値を持つ、という事です。無論、日本で多くの大学生や高校生が模擬国連活動に携わる事はそこから得られる様々な知識や経験から考えても決して無駄ではありません。しかし、国連の会議を模擬するという事は、互いの違いを認めた上で共通のルールの下に合意形成を行うという方法を学ぶ事に他なりません。ですから日本人だけで会議を行ったとしてもそれは模擬国連という活動の本当の良さを生かし切れていないのではないかと、というのが私の率直な思いです。

最後に、GMUNが終わった後に何をするか、という点に触れたいと思います。大会中は会議以外にも国連機関代表によるパネルディスカッションなどのプログラムがありました。そうした場所で、赤阪事務次長を始めとする多くの方々が「自分の国に帰ったら所属するコミュニティの中でリーダーシップをとり、世界の貧困の現状を始めとした様々な事実を広める役割を担って欲しい」とをくり返し仰っていたのが印象的でした。私は、今年の冬第21回全日本模擬国連大会でアフリカの開発問題を題材とする会議を担当しますが、その機会を使って赤阪事務次長らのお言葉を胸に努力したいと思います。

渉外・収支報告

収入		支出	
		円	円
助成			航空券代
かめのり財団		300,000	
千玄室		200,000	宿泊費* 29CHF × 88 × 9 × 5
個人負担	75000 × 5	375,000	食費 1500 × 5 × 9
			引継ぎ・報告会費 875000-862140
		875,000	875,000

*スイスフラン(CHF)のレート(1CHF=¥88)は2009年8月12日時点のもの

2009年8月28日

GMUN 日本代表団派遣プログラム 代表 高橋尚子

おわりに

未知の企画であった第一回GMUNへの派遣団を組織することは、非常に勇気のいることでした。それはわずか半年でそんな大金をあつめられるのか、という経済的な不安だけではありませんでした。むしろ、代表として、第一回派遣団の成果を今後の派遣につなげる必要があったにも関わらず、その方針は「派遣の成果は会議の成果にかかわらず」という個人的なポリシーと矛盾するからでした。

しかし4名のメンバーはジュネーブでの厳しいスケジュールや派遣前の激務にも文句を言わず、自分たちの派遣が今後の後輩たちにどれほどの恵みをもたらすかを見据え、運営でも会議でも全力をつくしてくれました。派遣の成果は会議の成果に関わらない、のですが、この4人は見事にそれを両立させたのです。各々の努力は各報告書をご参照いただく通りですが、あえてこの場を借りて感謝したいと思います。

小森谷祐司、あなたの綿密さと仕事に対する責任感に全幅の信頼を置き、とくに4月は私に代わって組織を軌道にのせてくれました。常に私をたてようとしてくれる心遣いに、非常に感謝しています。

小幡奈々江、大会中に議場で鋭い意見を連発するあなたの輝きを忘れません。事前の打ち合わせに何度もおうちをお借りしたり、忙しい中無理なお願いをしたりもしました。ピンチの時のななえちゃん、です。ありがとう。

金子・サパタ・亜由美、運営に目が行きがちな私を、ジュネーブで何度も「うまくやりたいのか、それとも楽しみたいのか」という問いに引き戻してくれました。あなたのお陰でひとつひとつの瞬

間を大切にできました。

平山雄人、大会中もGMUNの意義を様々な角度から体験し、目撃し、日本に持って帰ろうとしていた姿を、そしてその先あなたが日本でどう生かすかを、私たちは信じています。そして信じさせてくれて、ありがとう。

学生組織のつらいところは、実質4年以上のプランがたてられないことです。五カ年計画くらいの心積りで第一回の団長を引き受けたつもりですが、卒業してしまえば何の手助けもしてあげることができません。

願わくは、当派遣事業にお力添えくださった皆様、お名前はすべて記すことはできませんが、後輩たちの迷うところあればぜひ温かく見守って下さいますよう、重ねてお願い申し上げます。

模擬国連委員会の各位、特に委員長、全米団のみなさん、五里霧中であったこの企画について、半年以上前から一緒に議論してくれました。昨年度役員の小澤、中村両氏の心遣いにも感謝するばかりです。困難だからボトムを下げるのではなく、あえて高い目標を無理にでも目指すことに意義を感じ、努力する。模擬国連が、そのようなたまめ努力を提供する場として、これからもあり続けますように。

第一回Global MUN 日本代表団派遣事業

代表 高橋尚子